

知ってた!? 隠れたまちの アレコレ

市内の知られざるスポット
を調査してきました

Vol. 02 34年前の緑化フェアの面影

第40回全国都市緑化仙台フェア「未来の杜せんだい2023」が開幕しました。仙台で開催されるのは2回目で、1回目は平成元年に「'89グリーンフェアせんだい」として七北田公園を主会場に行われました。今でもこの周辺では、当時のフェアの面影を感じることができます。



公園の中に泉ヶ岳と太平洋?

七北田公園内には、「湧水山」^{ゆうすいざん}「流れ」「泉ヶ池」と呼ばれる水辺があります。休憩や散策の場として多くの方に親しまれているこれらは、前回の緑化フェア時に、それぞれ泉ヶ岳、七北田川、太平洋をイメージして造られました。「湧水山」の階段状の滝で水が豪快に流れ落ちる様子や、「流れ」のせせらぎ、「泉ヶ池」の噴水の爽やかな水しぶきなど、涼感に癒やされながら休息する人でにぎわいました。

今回も、七北田公園は連携会場として緑化フェアを盛り上げます。前回のフェアに思いを巡らせながら、園内を回ってみるのもオススメです。



▲前回の緑化フェア時の湧水山



泉ヶ池の噴水は、現在は主に土・日曜日、祝休日に稼働し、訪れた人を楽しめています



泉図書館前のモニュメント



▲砂の糸が時を刻む当時の様子



砂だけで1.2トンもあります



泉中央で眠る「80日間砂時計」

泉図書館前にあるピラミッド型のモニュメントをのぞくと、大きな砂時計が見えます。高さ5.5メートルもあるこの砂時計は、前回の緑化フェアでシンボルとして展示されていたものです。人と自然が共に過ごす時の流れを表し、「緑の惑星・地球」を取り戻そうという願いが込められています。フェアが開かれていた80日間、時を刻み続け、当時世界新記録を達成したそのスケールに来場者は圧倒されていたそうです。

悠久の時の流れと、緑を守り育てることへの思いを体現した砂時計。現在は役目を終え、泉中央で静かに杜の都の歩みを見守っています。

食べる力を育む

せんだいレシピ帖

だし殻で! 自家製ふりかけ



食を通じてエコな暮らしを提案する「せんだい食エコリーダー」考案のレシピです。だしを取った後のだし殻を使って、ふりかけを作ることができます。

- 材料 (1~2食分)
 だし殻…パックだし1個分 (約20グラム)
 砂糖・しょうゆ・みりん …各小さじ1
 水 …小さじ3
 いらごま(白) …小さじ1
 青のり …小さじ1
 ごま油 …少々

作り方

- 1 小鍋にだし殻と砂糖、しょうゆ、みりん、水を入れ、弱火にかけながら混ぜる
- 2 煮立ったらさらに火を弱め、汁気がなくなるまで混ぜ続ける
- 3 汁気がなくなったら、いらごまと青のりを加えていき、最後にごま油を加えて軽く炒める

食育Point

食品ロス削減など、食べ物を大切に、環境に配慮した食生活を実践することも「食育」の一つです。5月30日は「ごみゼロの日」。だし殻は捨てずに、おいしく食べきましょう

※ワケルネット<https://www.gomi100.com/>では、他にも食品ロスを減らすためのアイデアレシピを紹介しています 問家庭ごみ減量課 ☎214・8229